

令和3年度

# 全国学力・学習状況調査結果の概要

令和3年8月

高知県教育委員会

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 実施日 令和3年5月27日（木）

### (3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学を出題

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

### (4) 県内（公立学校）の参加状況

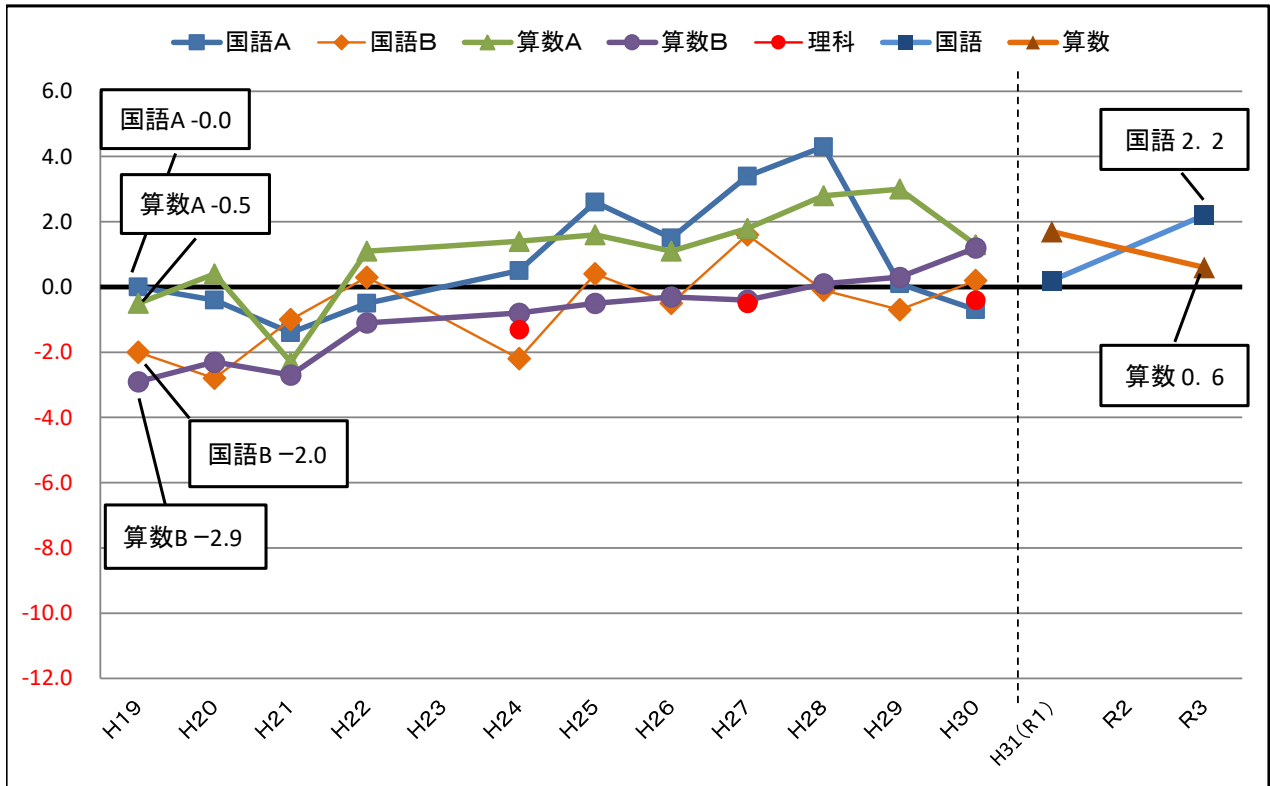
- ◇ 参加学校数 290校
  - 小学校 184校
  - 中学校 100校
  - 義務教育学校（前期課程・後期課程） 2校
  - 特別支援学校（小・中学部） 4校

- ◇ 小学校解答（回答）児童数
  - 国語 4,920名
  - 算数 4,919名
  - 児童質問紙 4,925名

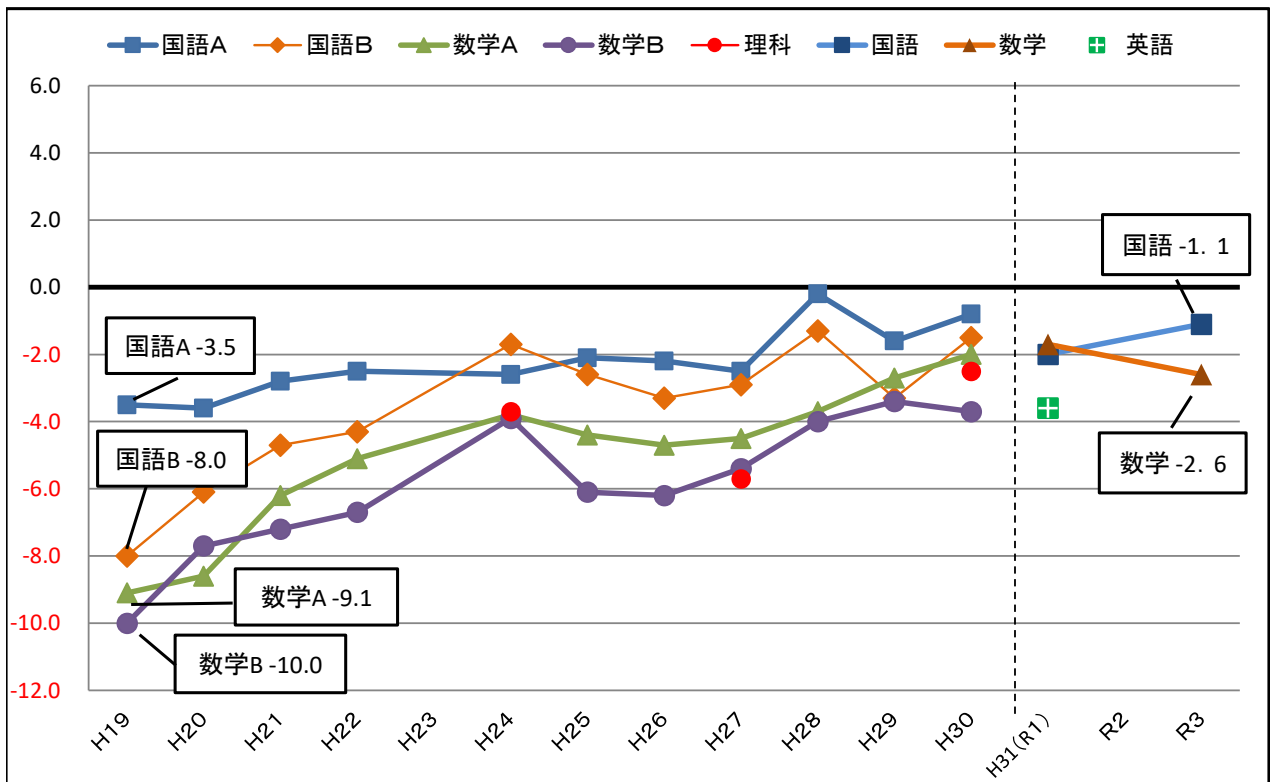
- ◇ 中学校解答（回答）生徒数
  - 国語 4,163名
  - 数学 4,164名
  - 生徒質問紙 4,166名

平成19年～令和3年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国値はない。)

※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

## 教科別平均正答率【小学校】

小学校(国語・算数)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
<b>令和3年度</b>	<b>66.9</b>	<b>64.7</b>	<b>2.2</b>	<b>70.8</b>	<b>70.2</b>	<b>0.6</b>
平成31(令和元)年度	64.0	63.8	0.2	68.3	66.6	1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	70.0	70.7	-0.7	64.8	63.5	1.3
	平成29年度	74.9	74.8	0.1	81.6	78.6	3.0
	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
	平成23年度	81.0			82.3		
	平成22年度	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	-0.5	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	1.1
	平成21年度	68.5	69.9	-1.4	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0	81.6	82.1	-0.5
B	平成30年度	54.9	54.7	0.2	52.7	51.5	1.2
	平成29年度	56.8	57.5	-0.7	46.2	45.9	0.3
	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8
	平成23年度	44.3			46.2		
	平成22年度	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	0.3	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	-1.1
	平成21年度	49.5	50.5	-1.0	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0	60.7	63.6	-2.9

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

( )の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

## 教科別平均正答率【中学校】

中学校(国語・数学)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和3年度	63.5	64.6	-1.1	54.6	57.2	-2.6
平成31(令和元)年度	70.8	72.8	-2.0	58.1	59.8	-1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	75.3	76.1	-0.8	64.1	66.1	-2.0
	平成29年度	75.8	77.4	-1.6	61.9	64.6	-2.7
	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
	平成23年度	78.5			54.3		
	平成22年度	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-2.5	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-5.1
	平成21年度	74.2	77.0	-2.8	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6	54.5	63.1	-8.6
	平成19年度	78.1	81.6	-3.5	62.8	71.9	-9.1
B	平成30年度	59.7	61.2	-1.5	43.2	46.9	-3.7
	平成29年度	68.9	72.2	-3.3	44.7	48.1	-3.4
	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9
	平成23年度	61.0			45.2		
	平成22年度	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-4.3	36.6 (35.4~37.9)	43.3 (43.1~43.5)	-6.7
	平成21年度	69.8	74.5	-4.7	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0	50.6	60.6	-10.0

中学校(英語)			
	英語平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)	
平成31(令和元)年度	52.4	56.0	-3.6

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

( )の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

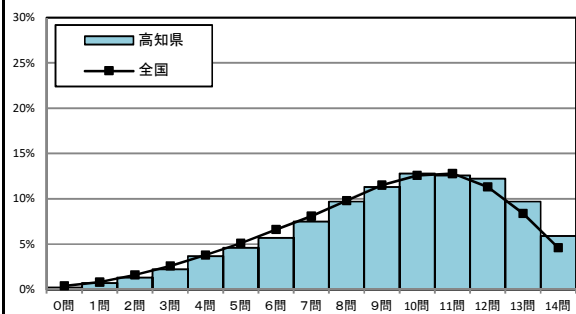
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

## 各教科に関する学力の状況

### 〔小学校国語〕

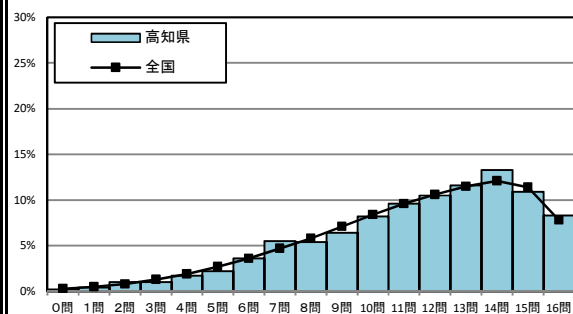
#### 正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,920	9.4/14	66.9%	10.0	3.0
全国	993,975	9.1/14	64.7%	9.0	3.1

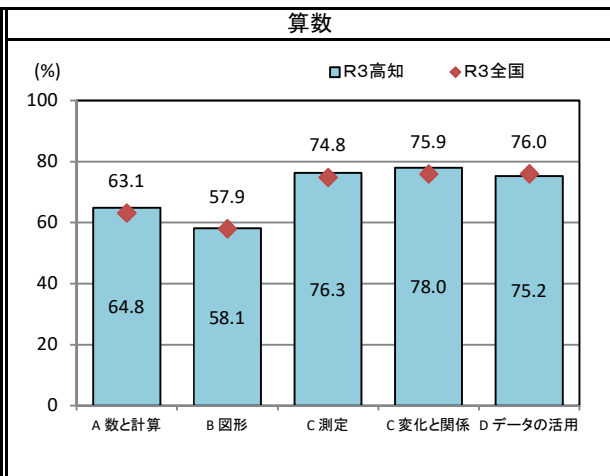
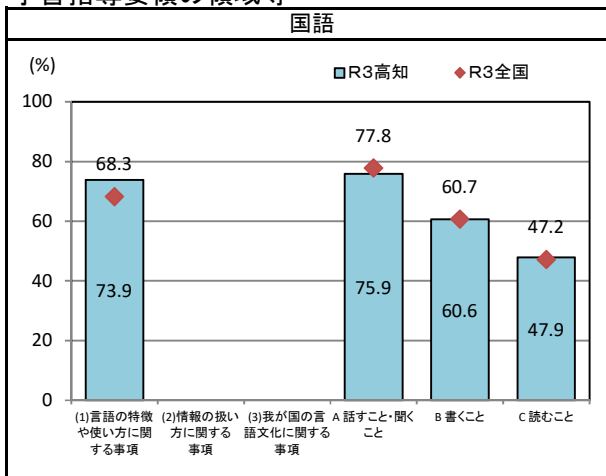


### 〔小学校算数〕

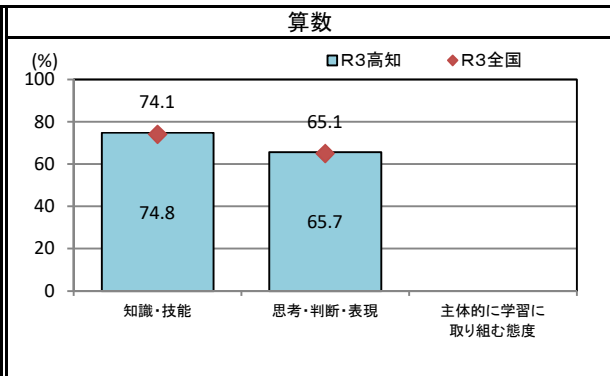
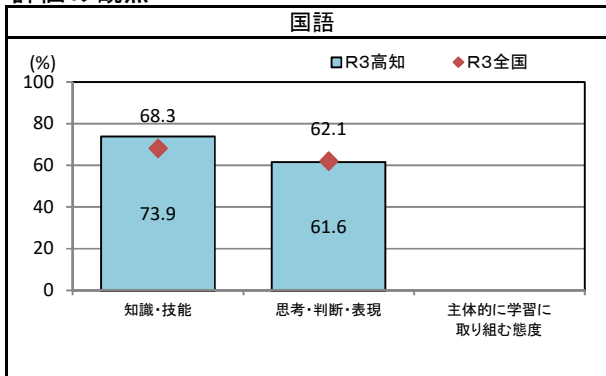
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,919	11.3/16	70.8%	12.0	3.4
全国	994,101	11.2/16	70.2%	12.0	3.5



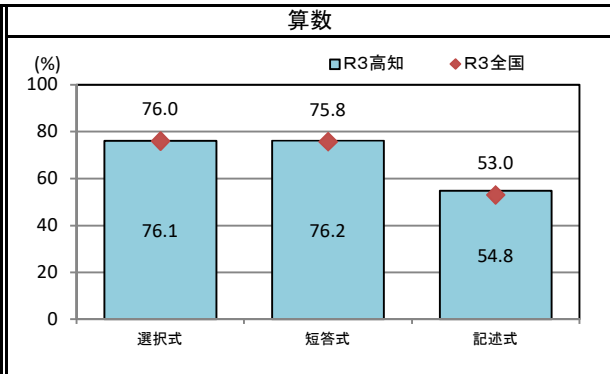
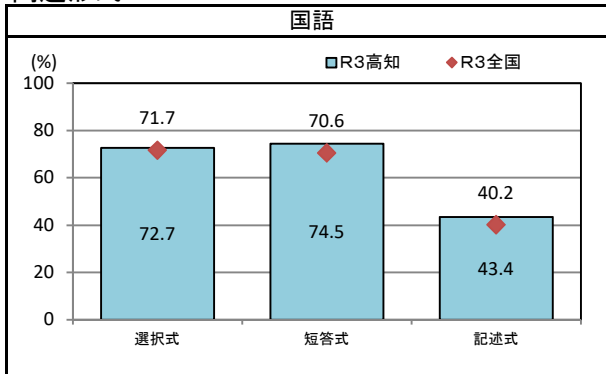
### 学習指導要領の領域等



### 評価の観点



### 問題形式



以下の集計値/グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

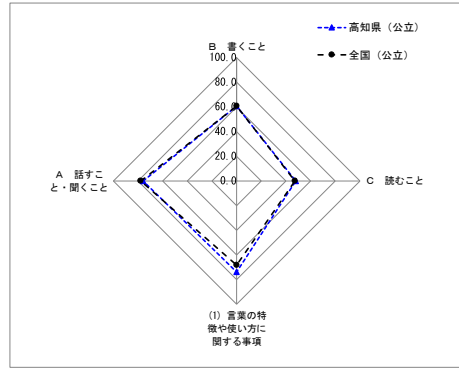
対象学校数		高知県(公立)	全国(公立)	対象児童数	高知県(公立)	全国(公立)
		187	18,857		4,920	993,975

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体			14	66.9	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	6	73.9	68.3
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	75.9	77.8
B 書くこと		2	60.6	60.7	
C 読むこと		3	47.9	47.2	
評価の観点	知識・技能	6	73.9	68.3	
	思考・判断・表現	8	61.6	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
	問題形式	選択式	8	72.7	71.7
	短答式	3	74.5	70.6	
	記述式	3	43.4	40.2	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差	高知県(公立)	全国(公立)	
			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	5・6イ				○	○	74.7	77.5	-2.8	0.0	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、(資料②)と(資料③)を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する	5・6ウ				○	○	72.4	74.9	-2.5	0.1	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の(資料②)の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す	5・6ウ				○		80.7	81.0	-0.3	0.1	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する			5・6ア		○	○	76.1	77.6	-1.5	0.1	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6ア				○	○	87.1	87.5	-0.4	0.1	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メス・ノコギリ、何をもとに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける			5・6ウ			○	35.9	34.4	1.5	3.5	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する			3・4ウ		○	○	31.8	29.7	2.1	4.4	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える			5・6イ		○	○	58.5	64.8	-6.3	0.9	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の……部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き直し方を工夫する			5・6ウ		○	○	62.6	56.6	6.0	7.0	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6エ				○	○	79.8	78.3	1.5	5.7	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)		5・6エ				○	○	59.0	54.4	4.6	9.1	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部エを、漢字を使って書き直す(ばんいん)		5・6エ				○	○	84.8	79.0	5.8	4.0	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部イで、……部「我々」が主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	3・4カ				○	○	77.4	67.0	10.4	1.9	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部オで、……部「すべし」が主語として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4カ				○	○	55.1	43.6	11.5	2.1	4.1



成果が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	3二	丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き表す	目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	62.6	6.0



目的や意図に応じて書く力を高める

○分析・考察

今回の調査では、全ての記述式問題において全国平均正答率を上回った。また、児童質問紙においても、「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりする」ことについて、肯定的な回答が73.7%あり、全国平均を2.1ポイント上回っている。

このことから、指定校の授業を通して発信してきた、学習の振り返りや自分の考えを書く活動が、各校において実践されてきていることがうかがえる。

○学習指導に当たって

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書くためには、理由や事例を明確にししながら筋道を立てて述べることが大切である。そのためには、異なる立場の考えを取り上げ、それに対する自分の考えを明確にするような場面設定が必要である。例えば、インタビューやアンケート調査などを行い、他者の視点や異なる考えを取り上げて、自分の意見と理由を述べる学習活動が考えられる。併せて、意見とその理由の整合性や説得のある文章の書き方などについて検討したり、文章を推敲・評価し合ったりする活動を設定することも必要である。



課題が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
選択	3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	58.5	-6.3



文章の構成を視覚的に捉える

○分析・考察

今回の調査では、3つの大問全てにおいて文章全体の構成を考える問題が設定されており、その問題の正答率が、本県は全国を下回っている。このことから、話の構成の効果や文章全体の構成を捉える力に課題があり、目的に応じた構成になっているか、相手に伝わる構成になっているかなどについて検討したり再構築したりする活動が、十分に行われていないことがうかがえる。

○学習指導に当たって

自分の主張を明確に伝えるためには、文章全体の構成や展開を考えて書くことが重要である。そのため、書く材料を整理したり関係付けたりして段落に書く内容を考えてながら、文章全体の構成や展開を検討できるようにすることが必要である。例えば、主張や理由、事例をカードに分けて書いたり、並べ替えたりするなど、視覚的に捉えられるような学習活動が有効と考える。その際に、一人一台端末を用いて、デジタルホワイトボードソフトを使って「主張」や「理由」などの付箋カードを並び替え、検討していくことも考えられる。



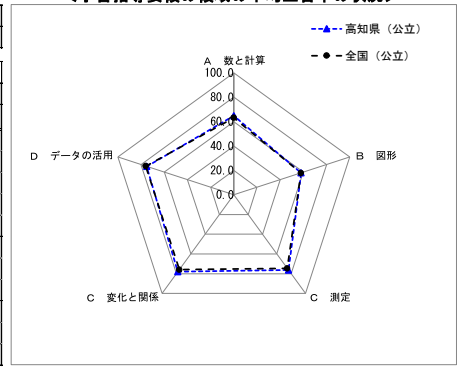
以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 187	全国(公立) 18,854	対象児童数	高知県(公立) 4,919	全国(公立) 994,101
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体		16	70.8	70.2	
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	64.8	63.1	
	B 図形	3	58.1	57.9	
	C 測定	3	76.3	74.8	
	C 変化と関係	3	78.0	75.9	
	D データの活用	5	75.2	76.0	
評価の観点	知識・技能	9	74.8	74.1	
	思考・判断・表現	7	65.7	65.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	76.1	76.0	
	短答式	6	76.2	75.8	
	記述式	4	54.8	53.0	

※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差	高知県(公立)	全国(公立)		
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) 7(4)			2(1) 7(7)														
1(2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる				5(1) 7(7)														
1(3)	㉞と㉟の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している				5(2) 7(7)														
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる				3(2) 7(4)														
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる				5(2) 7(7)														
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	5(3) 7(7)																	
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	5(3) 7(7)		1(1) 7(4)															
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	5(3) 7(7)																	
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる				3(1) 7(4)														
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる				3(1) 7(4)														
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる				4(1) 7(7)														
3(4)	棒グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	棒グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる				5(1) 7(7)														
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる				5(1) 7(7)														
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3(4) 7(7)			4(1) 7(7)														
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人名のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4(4) 7(7)																	
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4(4) 7(7)																	

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。



成果が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる	88.2	3.1



速さ・道のり・時間についての数量の関係を捉える

○分析・考察

学習指導要領の改訂により6年生から5年生に移行された内容の問題である。平成30年度から令和元年度までの移行期間中に、速さなどの単位量当たりの大きさの意味について適切に指導されてきたことがうかがえる。

○学習指導に当たって

速さ、道のり、時間を公式によって求めるだけでなく、数量の関係を捉えて式に表すことができるようにすることが大切である。例えば、速さなどの単位量当たりの指導では、速さは時間と道のりの二つの量に関係があることに気付かせ、数直線を用いて二つの数量に着目させながら、単位量当たりの大きさを捉えさせる授業が考えられる。

また、人口密度など、身の回りにある単位量当たりの大きさを解決できる事象を取り上げ、単位量当たりで比べるよさを実感させることも大切にしたい。



課題が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	52.6	-2.5
記述	2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	47.9	1.9



図形の構成要素に着目した系統的な指導

○分析・考察

面積を求めるために必要な図形の構成要素に着目する力に課題がみられる。例えば、2(1)では、全ての辺の長さに着目して三角形の面積を求めたり、2(3)では、平行四辺形ABCDの斜辺の長さを高さとして捉えて面積を求めている誤答が見られた。

また、学校質問紙において、「公式やきまりなどを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していたか」という質問に対し、「よく行った」と回答した割合が全国と比べて、6.3ポイント下回っていた。このことから、図形の構成要素に着目しながら求積と公式を関連付けて説明する活動が十分でなく、基本図形の面積を求める公式の理解不足がうかがえる。

○学習指導に当たって

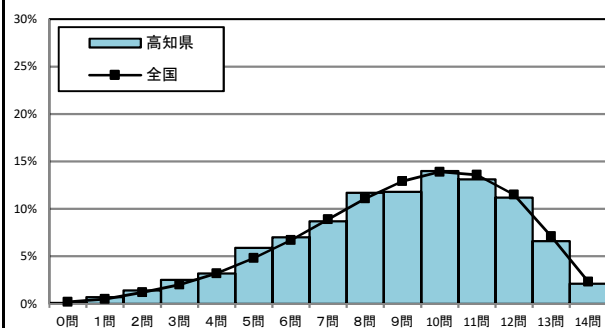
図形の面積を求める学習では、図形の構成要素に着目し、求める図形の辺の長さや底辺と高さの関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにすることが大切である。例えば、求積のために必要な情報を図形から選び出す活動や既習の求積可能な図形に変形して面積を求める活動などが考えられ、もとの形の辺や高さとの対応に着目できるよう、低学年から図形の観察や操作活動を通して、系統的に指導を行っていくことが必要である。

# 各教科に関する学力の状況

## 〔中学校国語〕

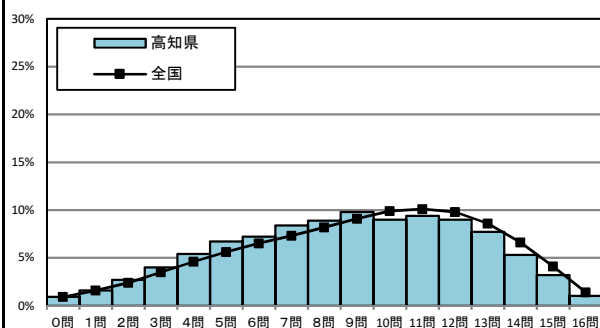
### 正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,163	8.9/14	63.5%	9.0	2.9
全国	903,157	9.0/14	64.6%	9.0	2.8

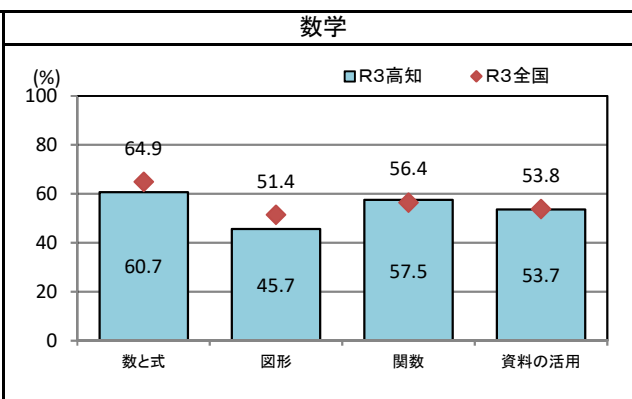
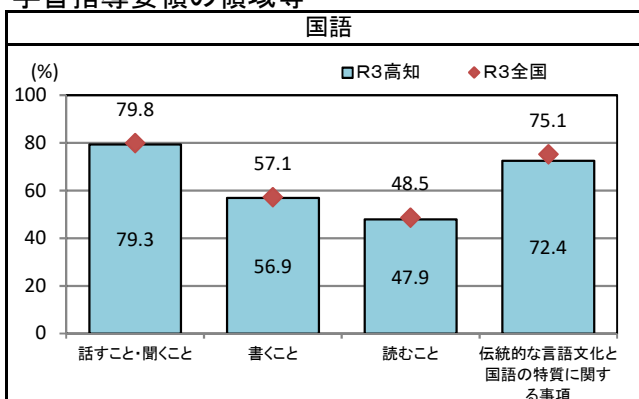


## 〔中学校数学〕

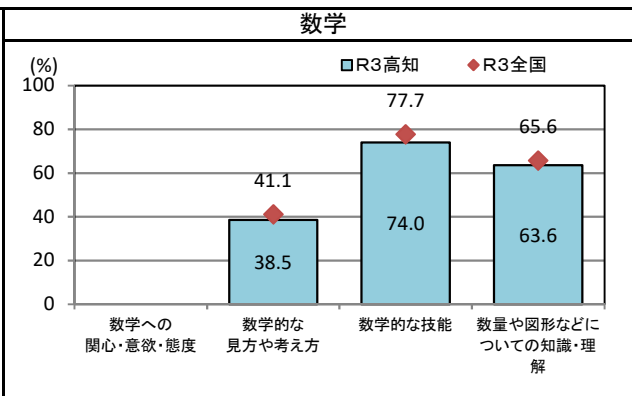
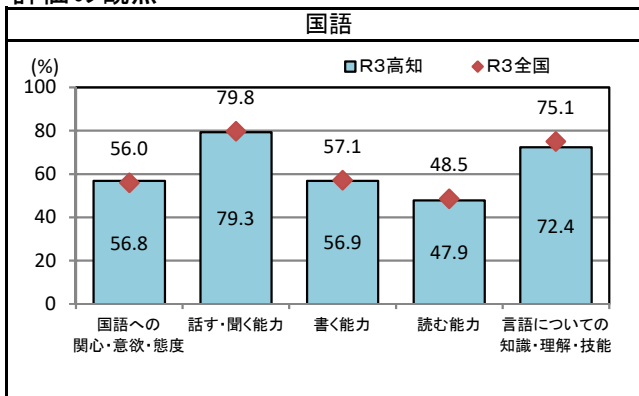
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,164	8.7/16	54.6%	9.0	3.7
全国	903,253	9.1/16	57.2%	10.0	3.7



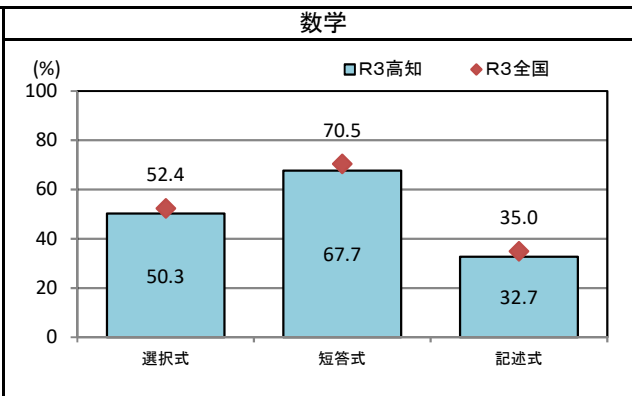
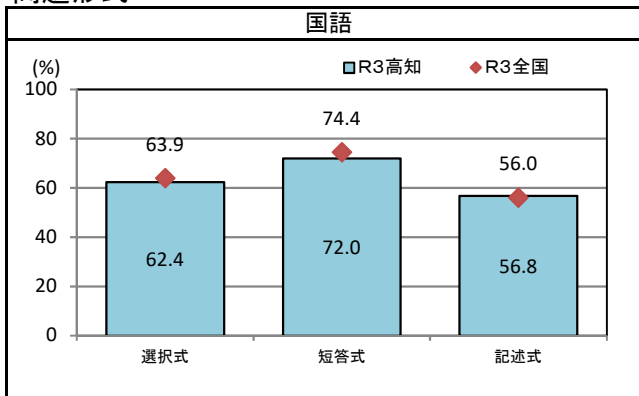
### 学習指導要領の領域等



### 評価の観点



### 問題形式

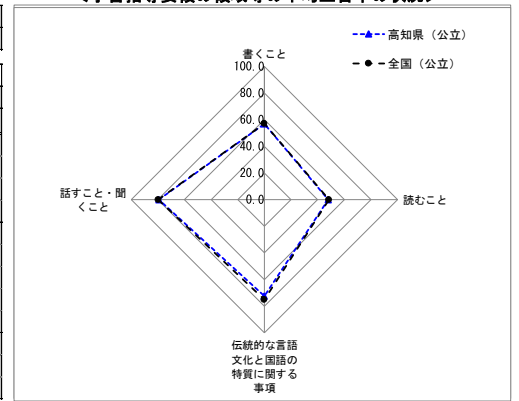


・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 105	全国(公立) 9,319	対象生徒数	高知県(公立) 4,163	全国(公立) 903,157
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体			14	63.5	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	79.3	79.8	
	書くこと	3	56.9	57.1	
	読むこと	4	47.9	48.5	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	72.4	75.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.8	56.0	
	話す・聞く能力	3	79.3	79.8	
	書く能力	3	56.9	57.1	
	読む能力	4	47.9	48.5	
	言語についての知識・理解・技能	4	72.4	75.1	
	問題形式	選択式	6	62.4	63.9
短答式		4	72.0	74.4	
記述式		4	56.8	56.0	

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ					○			○			89.3	89.7	-0.4	0.0	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ					○			○			91.4	92.5	-1.1	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ					○	○			○		57.3	57.1	0.2	3.6	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ					○			○			25.8	24.8	1.0	0.1	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ					○	○		○			76.5	74.5	2.0	7.6	8.5
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する		1ア							○			43.3	43.7	-0.4	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する		1ア							○			55.0	58.7	-3.7	0.4	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する		2イ							○			68.3	71.0	-2.7	6.9	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ		1オ				○			○			25.1	20.5	4.6	20.7	24.1
4一①	漢字を読む(伸ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む		2ウ(7)							○	○		97.4	97.5	-0.1	1.4	1.5
4一②	漢字を読む(詳細)			2ウ(7)							○	○		85.0	88.8	-3.8	2.3	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する		1イ(9)							○	○		69.8	74.0	-4.2	0.7	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う		2イ(7)							○	○		37.1	40.3	-3.2	1.1	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ				○	○			○		68.3	71.9	-3.6	10.8	9.7



成果が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	76.5	2.0



観点を明確にして、具体的に助言し合う

○分析・考察

平成30年度の調査では、「文章の構成を検討する」問題に課題が見られたが、本調査では「書いた文章を互いに読み合う場面で、文章の構成にどのような工夫があるのか」を捉えることに、改善が見られた。

このことから、指定校の授業を通して発信してきた文章の構成を吟味・検討する活動が、各校において実践されてきていることがうかがえる。

○学習指導に当たって

書いた文章を互いに読み合う際には、「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」の各段階を踏まえ、特に、当該学年で重点としている内容に着目するように指導することが大切である。その際、読み手には、書き手の目的と意図を理解した上で、具体的な部分や事柄を取り上げて助言するように指導することが必要である。また、書き手には、読み手からの助言を踏まえて、他者にどう読まれるかを自覚し、自分の書く活動に生かすよう指導することが必要である。



課題が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	37.1	-3.2
記述	4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	68.3	-3.6



実際の活用場面を設定し、相手や目的を意識して書く

○分析・考察

過去にも、敬語の問題は出題されているが、改善が図られていない。本調査において、「行く」を敬語に書き直すことと敬語の種類として適切なものを選ぶことの両方において、誤った解答が28.6%見られた。また、相手にふさわしい言葉遣いや内容を考えて、文意が通じるよう分かりやすく書く問題においても全国平均を下回り、無解答も10.8%あった。これらの課題は、敬語の理解が十分でないことはもちろんのこと、実際に学んだことを活用して、相手や場に応じた言葉遣いで、伝えたいことを分かりやすく書く活動が不足していることが要因と考えられる。

○学習指導に当たって

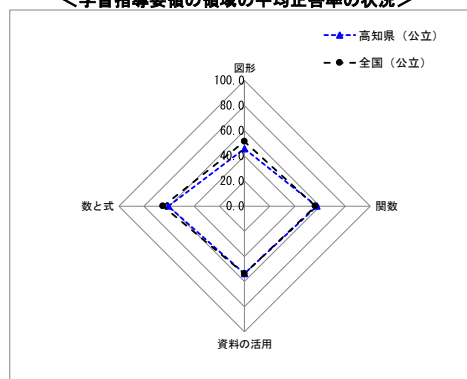
相手や目的に応じた言葉遣いで、読み手に伝えたいことが伝わるように書くためには、実用的な文章を書く言語活動を通して、敬語などの言葉遣いとその働き、分かりやすい構成や書き表し方などについて指導することが大切である。例えば、お世話になっている相手に案内やお礼の手紙を書いたり、校外学習や情報収集の際に、電子メールで依頼や質問を行ったりする言語活動が考えられる。その際、単に、敬語だけを扱う活動にならないよう留意するとともに、自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くように指導することが必要である。

・以下の集計値/グラフは、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 105	全国(公立) 9,316	対象生徒数	高知県(公立) 4,164	全国(公立) 903,253		
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)				
			高知県(公立)	全国(公立)			
全体					16	54.6	57.2
学習指導要領の領域	数と式	5	60.7	64.9			
	図形	4	45.7	51.4			
	関数	3	57.5	56.4			
	資料の活用	4	53.7	53.8			
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0					
	数学的な見方や考え方	7	38.5	41.1			
	数学的な技能	3	74.0	77.7			
	数量や図形などについての知識・理解	6	63.6	65.6			
問題形式	選択式	2	50.3	52.4			
	短答式	9	67.7	70.5			
	記述式	5	32.7	35.0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2(1) ア					○			○			72.9	77.1	-4.2	0.9	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	1(3) ウ					○			○			64.4	71.3	-6.9	7.9	7.6
3	中心角60°の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1(2) ウ					○	○				63.9	68.1	-4.2	0.4	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1(1) ア				○		○			50.0	48.0	2.0	7.6	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることのできる			1(1) ア			○			○			84.7	84.5	0.2	1.0	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) イ、ウ					○			○			82.0	83.9	-1.9	3.1	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ、ウ					○			○			57.6	61.8	-4.2	14.0	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1) イ、ウ					○			○			26.4	30.3	-3.9	24.3	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		1(1) ウ					○		○			93.1	93.5	-0.4	1.9	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		1(1) エ、オ				○			○			29.3	27.7	1.6	18.7	24.7
8(1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる		1(1) ア					○		○			81.7	83.0	-1.3	4.0	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性と意味を理解している		1(1) ア						○	○			36.7	36.8	-0.1	1.0	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		1(1) イ				○			○			11.7	11.1	0.6	26.3	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる		2(2) イ、ウ				○			○			38.7	44.3	-5.6	4.7	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している		2(1) ア					○		○			56.1	64.3	-8.2	15.3	14.2
9(3)	∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる		2(1) ア				○			○			24.1	28.8	-4.7	25.2	28.7



成果が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
短答	5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	84.7	0.2



データの特徴を捉えるために代表値を用いること

○分析・考察

「中央値」を求める問題は過去にも出題されており、H27年度は正答率が47.2%、H30年度は77.2%、本年度は84.7%と、改善してきている。各校において、単に中央値を求める指導ではなく、集団の位置を知るため等、目的に応じて中央値を求める指導へと授業改善が図られてきたことがうかがえる。

○学習指導に当たって

データの特徴を捉えるためには、代表値（中央値・平均値・最頻値等）を求めることが必要である。新学習指導要領において新設となった箱ひげ図を用いた分析で、中央値の考え方は必要であり、指導に当たっては、複数の集団のデータの分布に着目して、求めた代表値を用いて、データの傾向を的確に読み取り、批判的に考察し、判断する活動を取り入れていくことが求められる。



課題が見られる問題

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	9 (1)	四角形A B C Eが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる	38.7	-5.6
短答	9 (2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線F Eと直線B Cの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	56.1	-8.2
短答	9 (3)	$\angle A R G$ や $\angle A S G$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	24.1	-4.7



図形の性質を見だし、数学的に表現すること

○分析・考察

「図形」領域のすべての問題において、全国値を大きく下回っている。この大問9は、(1)~(3)の一連の活動を通して、平行線や角などの性質を基に図形を考察し、数学的に表現できるかどうかをみる問題となっている。特に、(3)のように発展的に考え、条件を保ったまま図形を動かして成り立つ事柄を見いだすような学習活動には、図形の性質や関係について、対応する等しい辺や角に着目し、数学的に表現する力、見いだした性質を数学的に表現する力が必要となる。しかしながら、その力が十分でないことから、図形の考察場面で、辺や角について変わらない性質を見いだすことや、いつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現する活動が不足していると考えられる。

○学習指導に当たって

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道立てて考えることや、ある条件の下で図形を動かしても、常に成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を設定することが必要である。この思考過程そのものが数学の問題を発見・解決する能力であることから、本問のように(1)~(3)の一連の活動を通して、平行線や角の性質を基に、見いだした図形の性質を数学的に表現することができるようにすることは大切である。その際、一人一台端末を活用し、生徒自身が画面上の図形を動かして、試行錯誤しながら観察、操作し、辺や角の大きさや関係性を見いだす探究活動が考えられる。

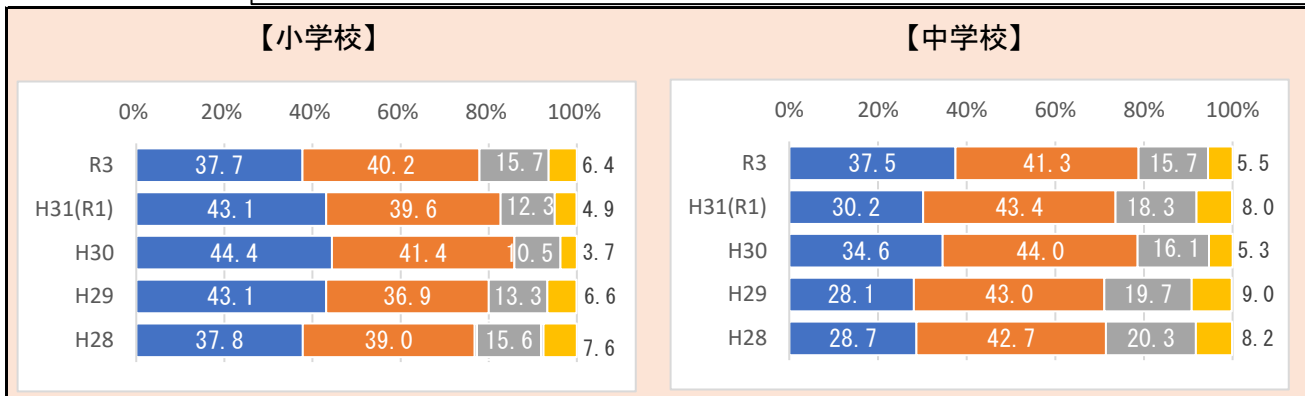
# 質問紙調査の結果（抜粋）

## 1. 児童生徒質問紙調査項目の経年変化

### 【6】 自分には、よいところがあると思いますか

高知県（経年）

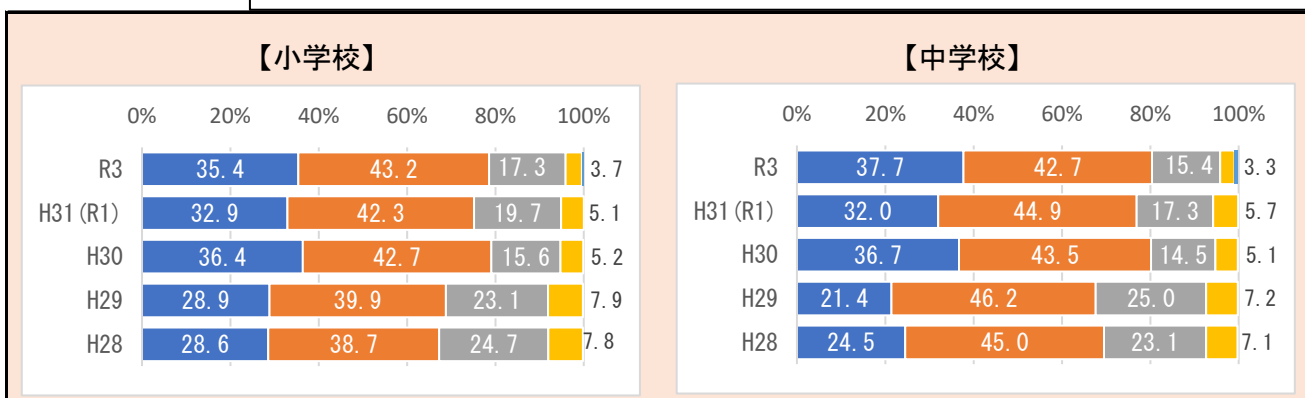
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



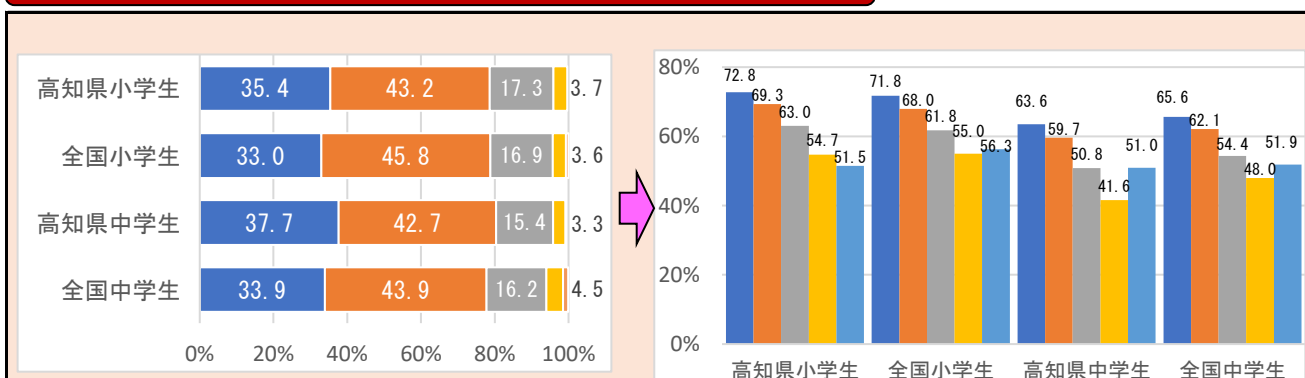
### 【37】 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

高知県（経年）

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



### 令和3年度調査結果から見られた質問項目（37）と正答率との相関



肯定的な回答をした児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

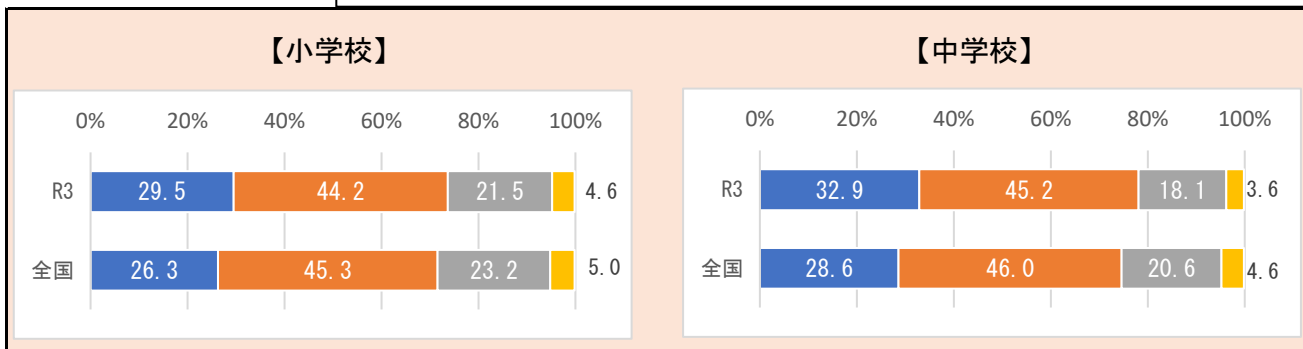


【49】（小学校） 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

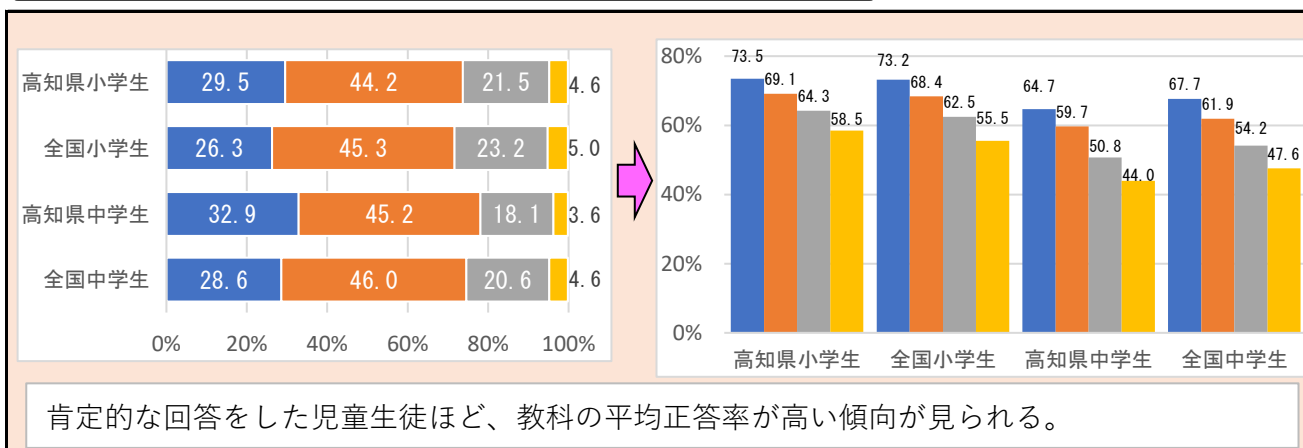
【49】（中学校） 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか

令和3年度調査結果

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



令和3年度調査結果から見られた質問項目（49）と正答率との相関

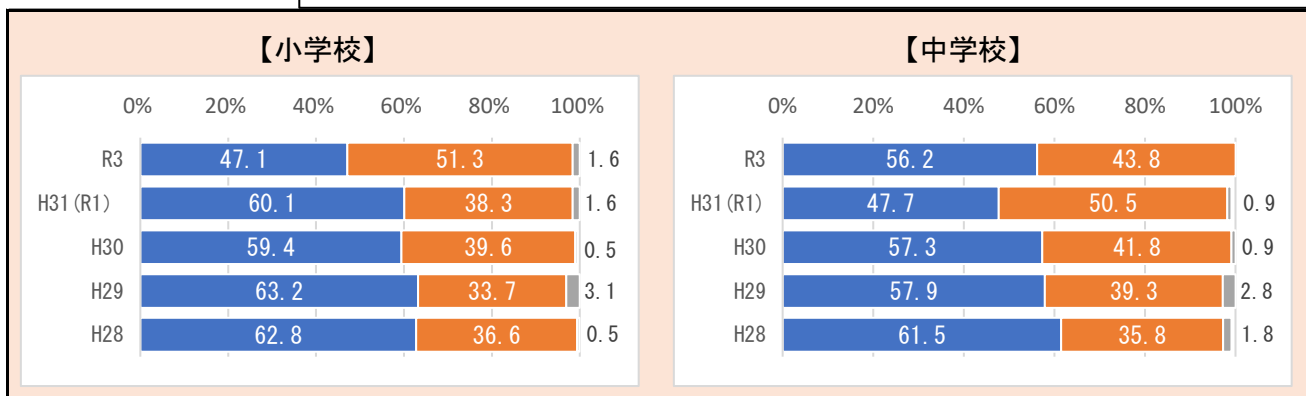


## 2. 学校質問紙調査項目の経年変化

【17】 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

高知県（経年）

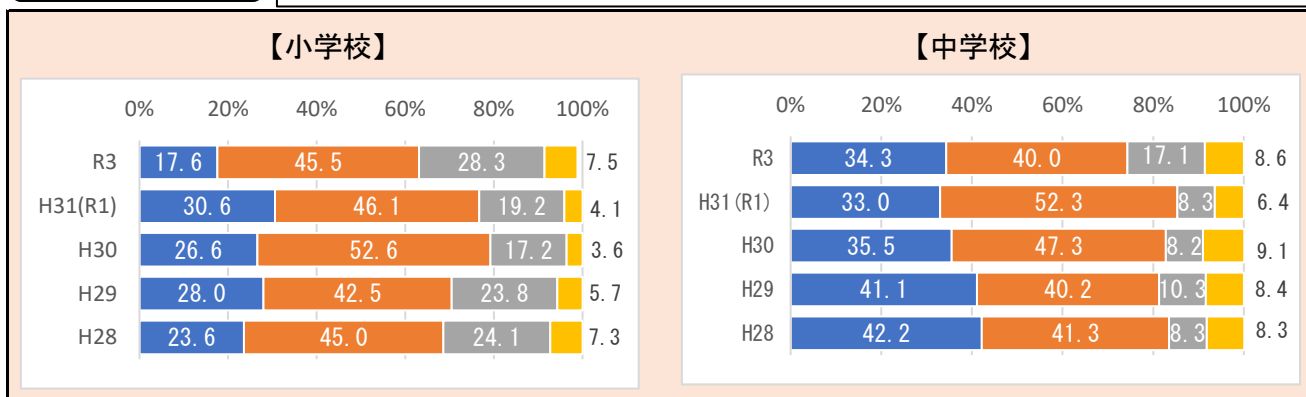
■よく取り組んでいる ■どちらかといえば、取り組んでいる ■あまり取り組んでいない ■全く取り組んでいない



【78】 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか

高知県（経年）

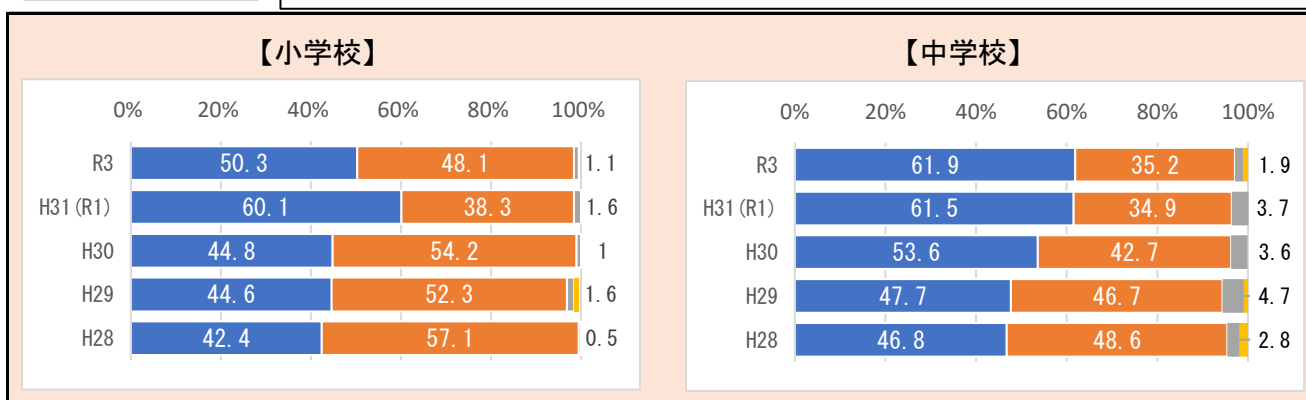
■よく行った ■どちらかといえば、行った ■あまり行わなかった ■全く行わなかった



【91】 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

高知県（経年）

■よく行っている ■どちらかといえば、行っている ■ほとんど行っていない ■地方公共団体における独自の学力調査を実施していない



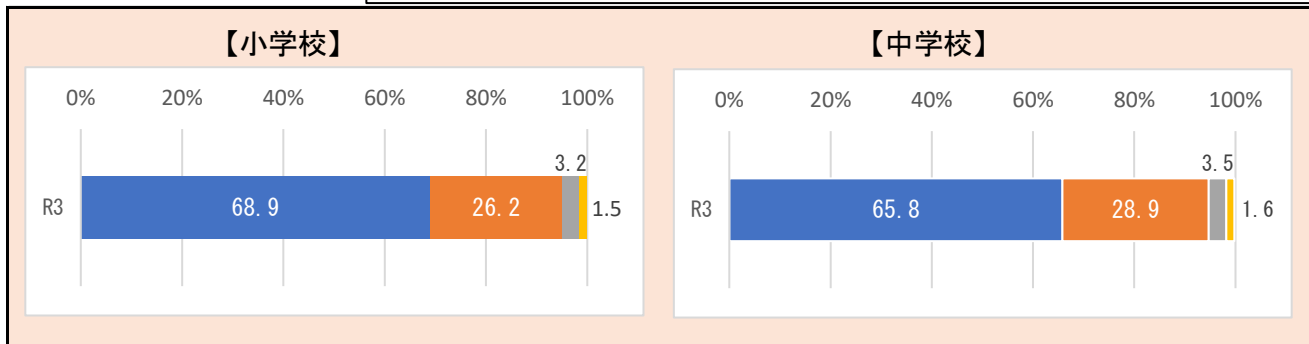
### 3. ICTを活用した学習状況

#### 児童生徒質問紙

【28】 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

令和3年度調査結果

■役に立つと思う ■どちらかといえば、役に立つと思う ■どちらかといえば、役に立たないと思う ■役に立たないと思う

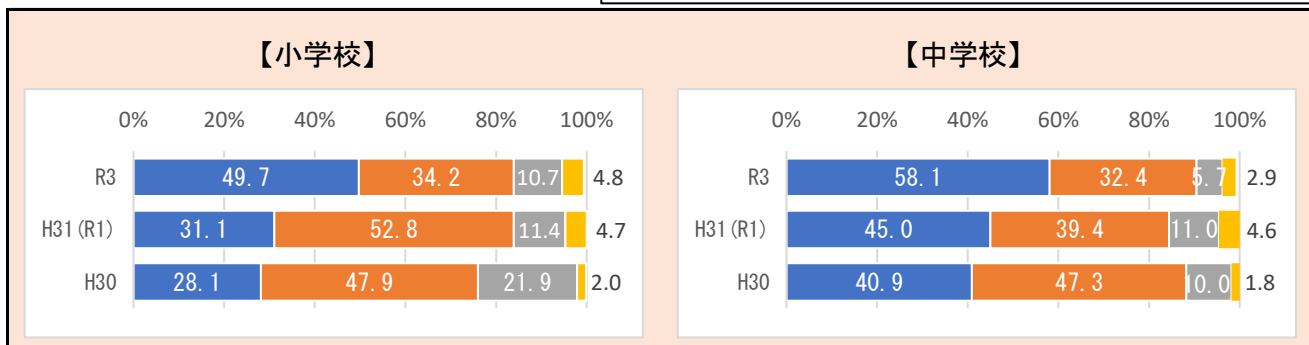


#### 学校質問紙

【66】 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行いましたか

高知県（経年）

■ほぼ毎日 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満



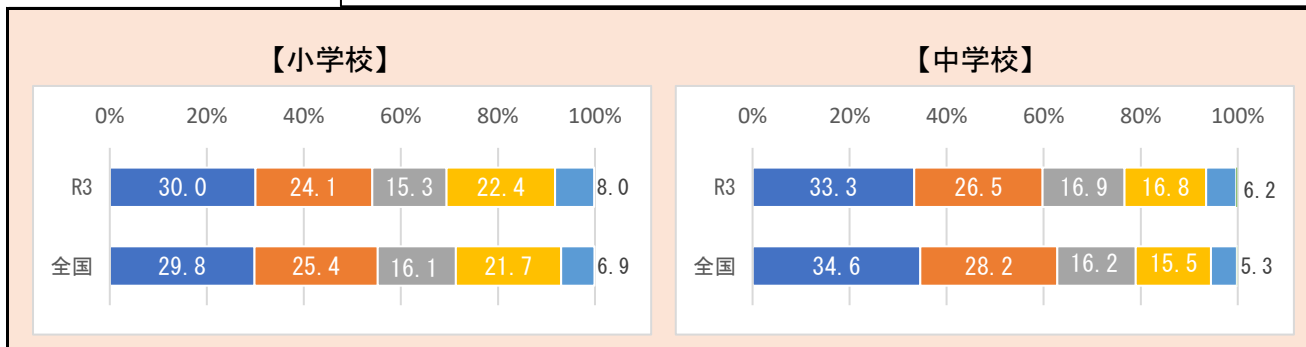
4. 新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休校と児童生徒の学習状況・学校の取組

児童生徒質問紙

【64】 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか

令和3年度調査結果

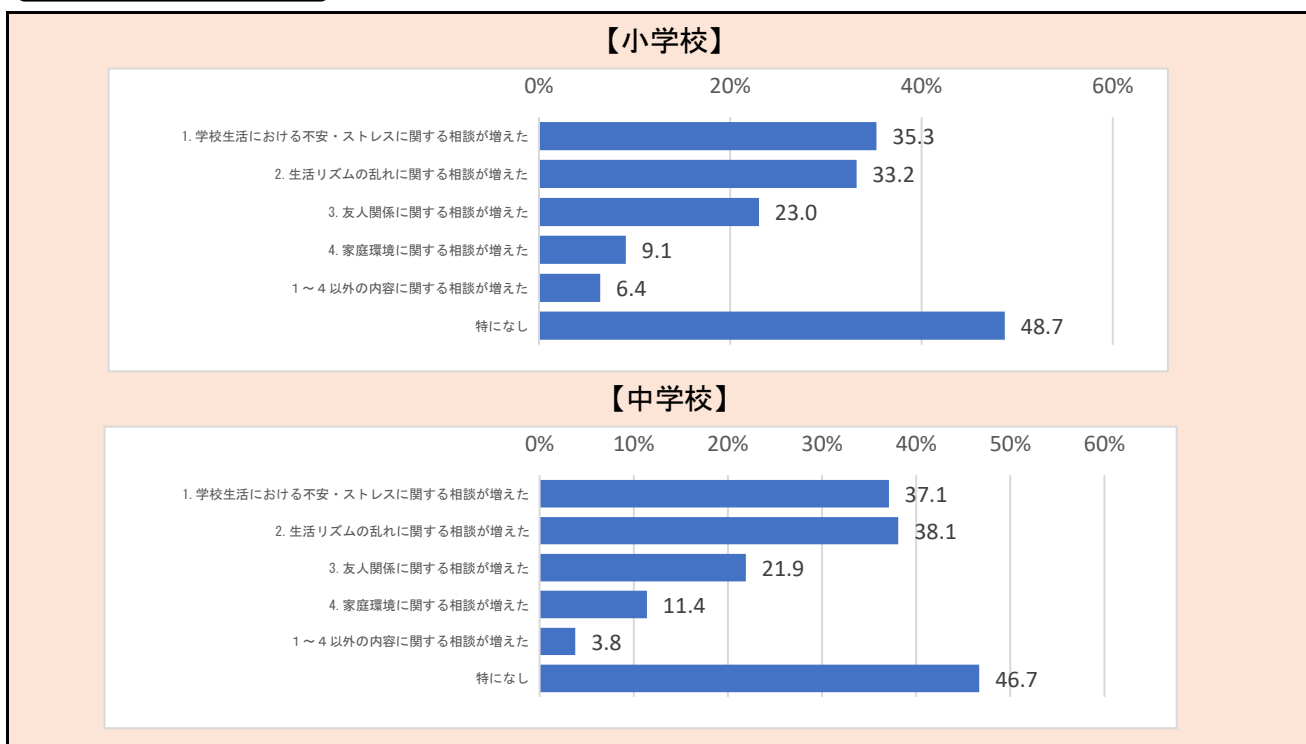
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■思い出せない



学校質問紙

【C11】 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童（生徒）からの相談内容に変化があったのはどれですか（複数選択）

令和3年度調査結果





## 令和3年度 高知県教育委員会事務局小中学校課の取組

### 組織づくり

#### ○学力向上のための学校経営力向上支援事業

学力調査等で明らかとなった学力課題を解決し、児童生徒の生きる力を育成するため、中長期的な視点に立った学校経営計画に基づく学力向上に向けた PDCA サイクルの確立を支援する。

#### ○組織力向上推進事業

メンター制（小・中）及び教科のタテ持ち等の学び合いの仕組み（中）を取り入れ、組織的な人材育成や授業改善、授業力向上のための体制づくりを校内に構築し、日常的な OJT の活性化を図る。

### 授業づくり

#### ○「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントの推進を図る。

#### ○英語教育強化プロジェクト

言語活動を中心とした 4 技能（聞く・話す・読む・書く）統合型の授業への転換と、ICT を活用し、授業と家庭学習のサイクル化による基礎基本の徹底により、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

#### ○言語能力・情報活用能力育成プラン

学校図書館を活用した授業を推進することで、学習の基盤となる言語能力と情報活用能力の向上を図る。

#### ○理科教育推進プロジェクト

理科の中核教員を養成・育成し、活用することで、授業の改善・充実を図り、児童生徒の理科への興味・関心等を高める。

#### ○情報教育推進教員養成事業

情報教育の中核的な役割を担う教員を養成し、教員の ICT を活用した指導力向上及び、プログラミング教育の授業づくりの質の向上を図る。

### 地域連携

#### ○道徳教育協働推進プラン

「考え、議論する道徳」の授業の充実と、地域ぐるみの道徳教育の推進により、児童生徒の道徳性の向上を図る。

#### ○キャリア教育強化プラン

小・中・高等学校を通じたキャリア教育を推進するとともに、各地域の特色を生かしたキャリア教育を支援し、児童生徒のキャリア発達を促す。

#### ○中山間地域における特色ある学校づくり推進事業

特色ある学校づくりを目指す市町村教育委員会を支援し、学校と地域の連携・協働による教育活動を充実させることで、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。

#### ○コミュニティ・スクール推進事業

市町村教育委員会に対し、学校運営協議会の設置に係る支援を行うことで、地域とともにある学校づくりを推進する。

#### ○放課後等における学習支援事業

小中学校における放課後等学習支援員の配置の支援を行うことで、放課後等の補充学習を充実させ、基礎学力の定着や家庭学習習慣の確立を図る。